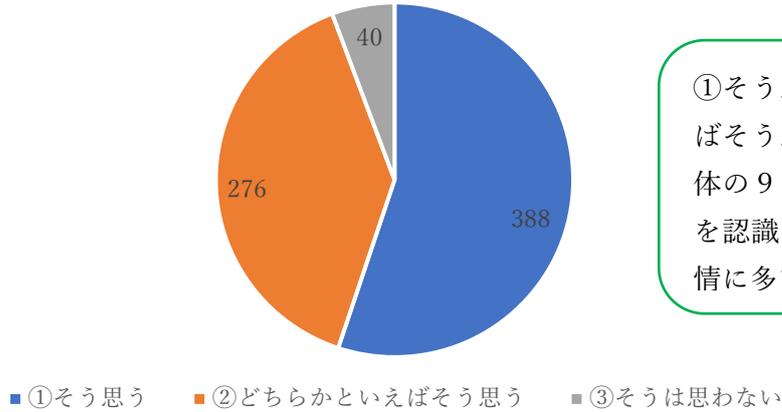


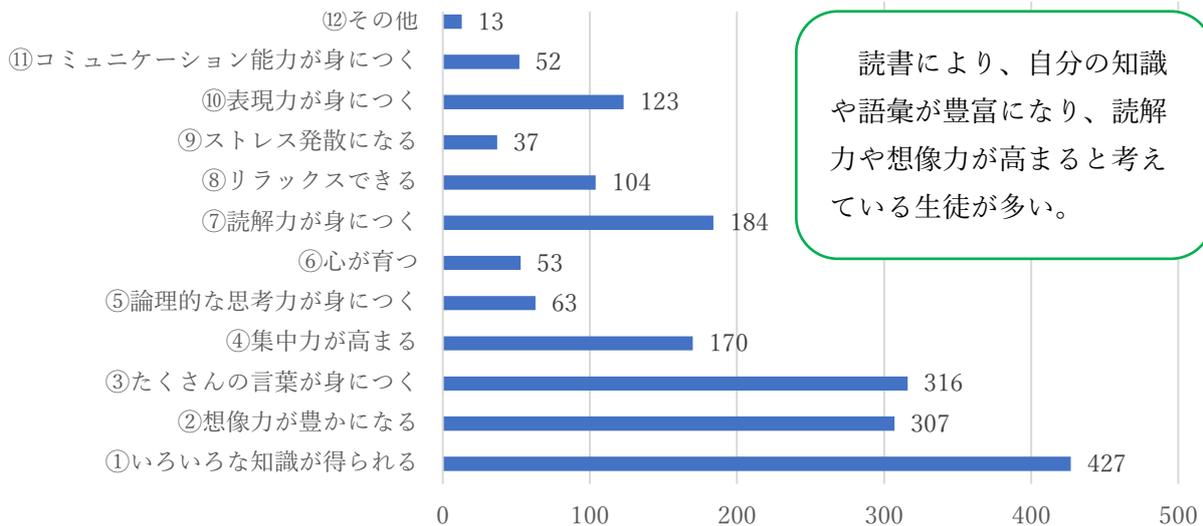
第5次 北九州市子ども読書プラン アンケート結果（中学生）

問1 本を読むことは大切だと思いますか。



①そう思う、②どちらかといえばそう思う、と答えた生徒は全体の94%以上。読書の大切さを認識している生徒の割合は非情に多い。

問2-(1) 問1で①または②と答えた方へ。
なぜ読書は大切だと思いますか。



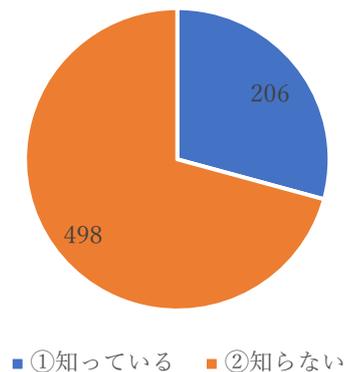
読書により、自分の知識や語彙が豊富になり、読解力や想像力が高まると考えている生徒が多い。

問2-(2) ⑫その他と回答した方へ。なぜ大切だと思うかお答えください。

ちゃんとした知識を得られ大人になったときに使える 大切だと思わない
特になし ?を選んだから わからない

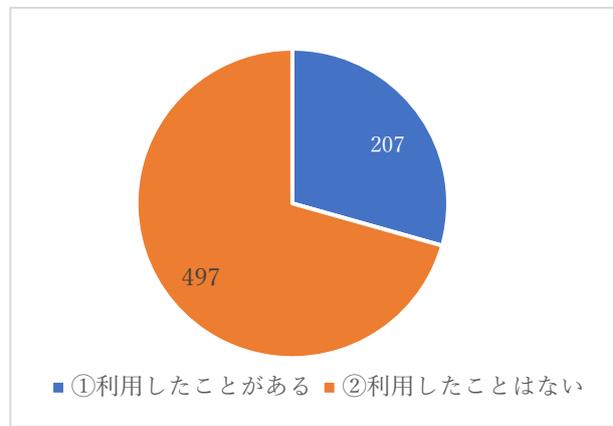
問3 10月の第4日曜日が「北九州市子ども読書の日」であることを知っていますか。

北九州市独自の子ども読書の日について知っている中学生は、毎年各学校に周知しているにも関わらず、全体の3割に満たない。

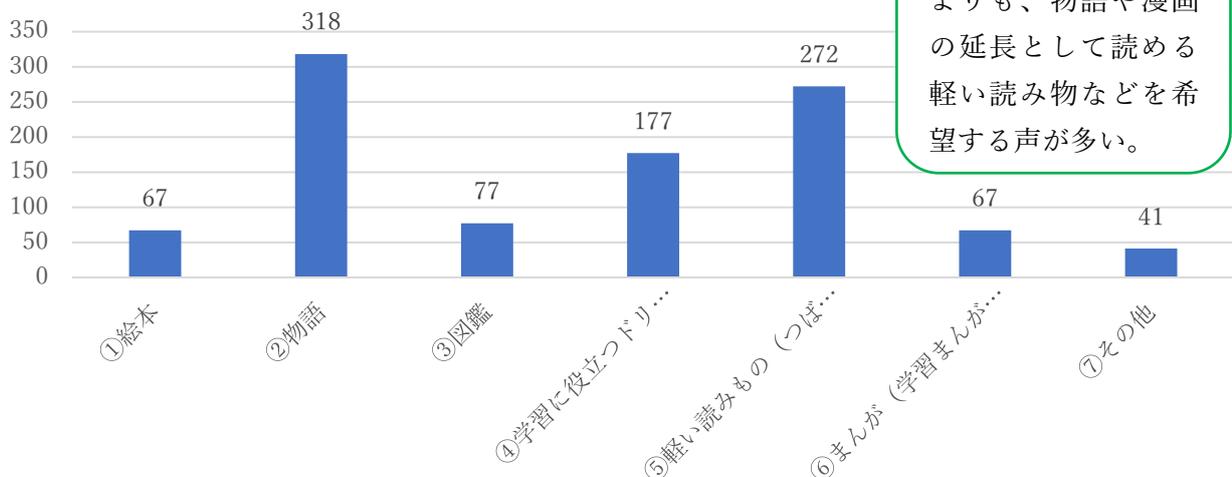


問4 令和3年度に「北九州市子ども電子図書館」が開館しました。あなたは利用したことがありますか。

開館時にID配布を行ったが、電子図書館を利用したことがある児童は、3割に満たない。



問5-(1) 電子図書館にどんな分野の本が充実していればよいと思いますか。(3つまで)



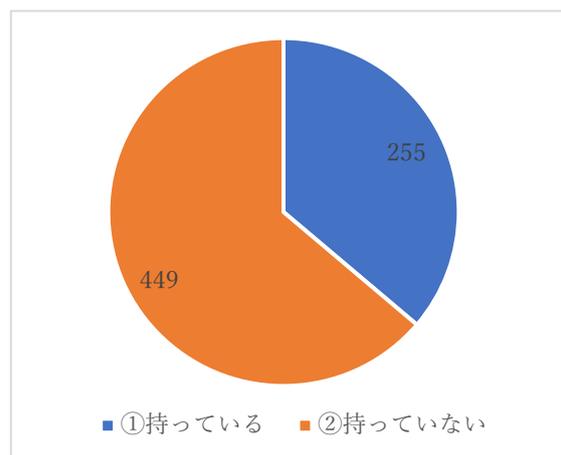
学習面に役立つ本よりも、物語や漫画の延長として読める軽い読み物などを希望する声が多い。

問5-(2) ⑦その他と答えた方へ。どんな分野の本が充実すればよいと思いますか。

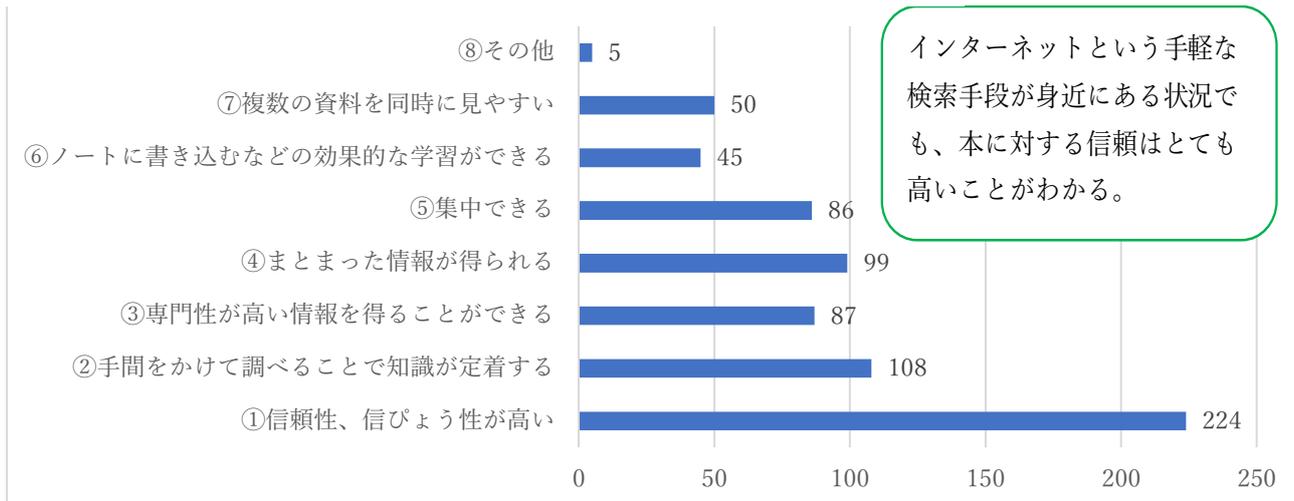
小説 外国の小説 海外の文学書 他国の言語の本 イタリア語の勉強の本
 歴史書 1つの本に一個一個タイトルがあるやつ アニメ漫画 インカ帝国の本
 怖い話 ホラー小説 恋愛系 映画系 アーティストの本 雑誌
 サッカー・スポーツ 音楽の本 楽器 謎解きなど ミステリー 頭を使う本
 評論の本 中学受験の本や高校の過去問などがあればうれしい
 言語に関するような本 エッセイ 語彙力を身に着けることができる本

問6 北九州市立図書館の図書館カード(貸出カード)を持っていますか。

市立図書館の貸出カードを持っている中学生は36%ほどで、6割以上の児童が図書館を利用していないことがわかる。



問7-(1) 何かをくわしく知りたいときに、本で調べることのよさはどのようなことですか。

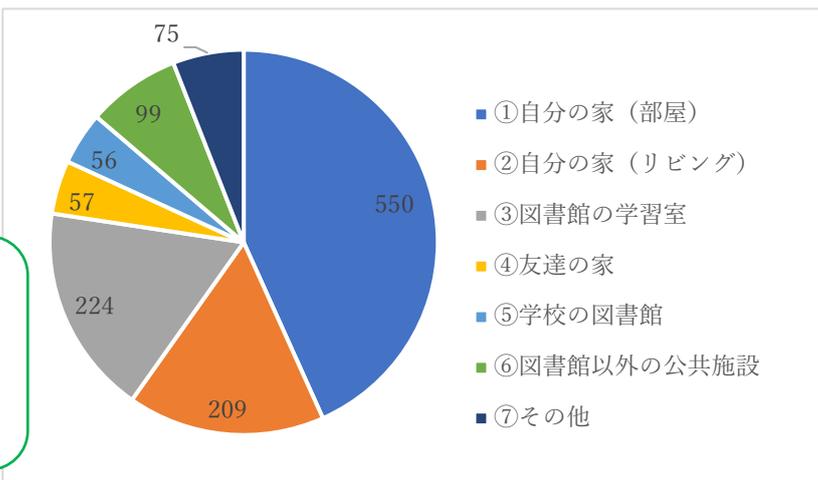


問7-(2) 問7-(1)でその他と答えた方へ。本で調べることのよさはどのようなことですか。

見やすい 自分が知りたかったこと以外のことも知ることができる
 スマホのバッテリー消費が少なくなる 本で調べない

問8-(1) 学校の教室以外で最も学習に集中できる場所はどこですか。(3つまで)

学習に集中できる場所として、自宅という回答が半数以上であるが、次に多い回答が図書館(全体の2割弱)である。

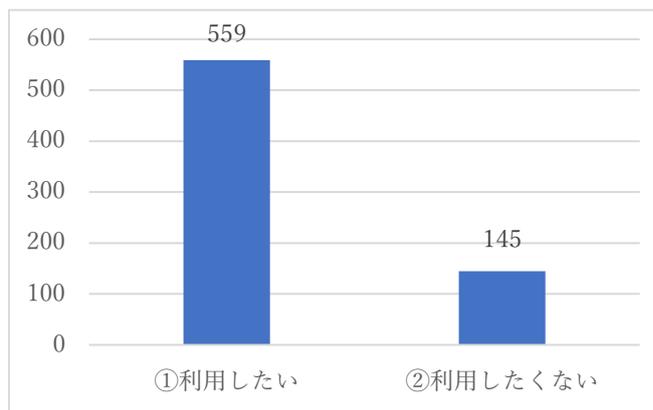


問8-(2) 問8-(1)でその他と答えた方へ。学校の教室以外で学習に集中できる場所はどこですか。

塾、塾の自習室、祖父母の家、ファストフード店、市民センターの学習室、家の学習机、放課後等デイサービス、家にある場所以外の静かで人が少ない場所、エコハウス、ベッド、人がいないところ、夜中の外、電車内

問9 自宅や学校以外で安心してのんびりくつろげる場所があれば、利用しますか。

8割近くの生徒が、自宅や学校以外にも、くつろげる場所を求めている。



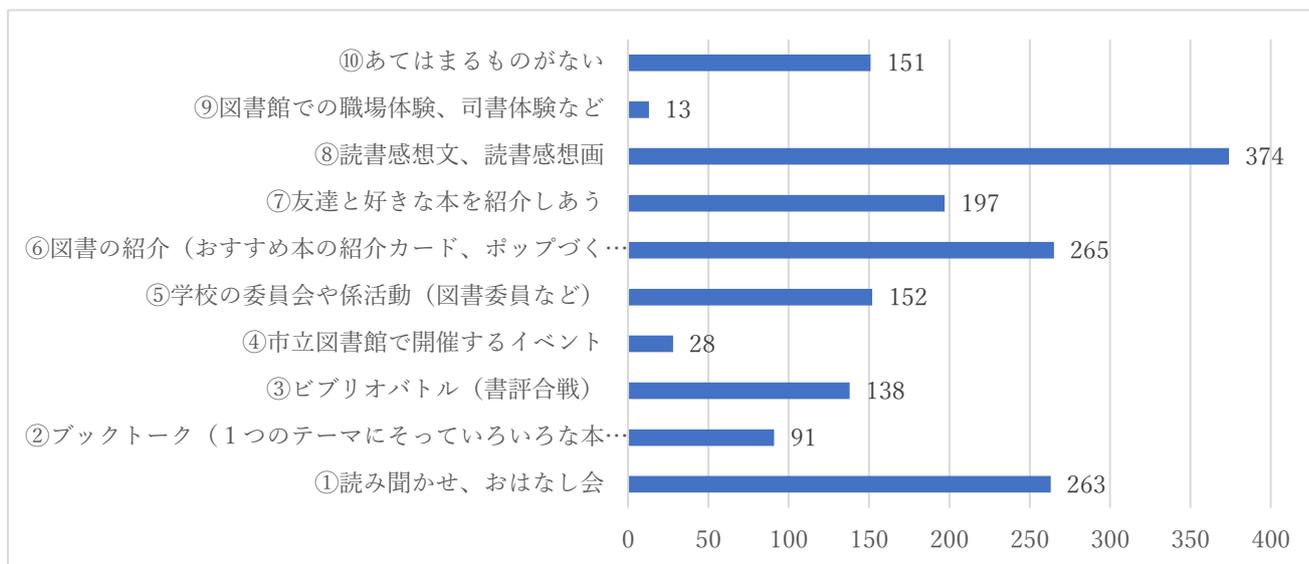
問10-(1) 「本を読む・借りられる」「調べものができる」ことに
 加えて、どんなことができたなら（どんなものがあつたら）
 市立図書館に行きたいと思いますか。（3つまで）



問10-(2) 問10-(1)で⑨その他と答えた方へ。どんなことができたなら
 （どんなものがあれば）市立図書館に行きたいと思いますか。

寝ることができたら 楽しめる 作品の展覧会 漫画コーナー
 大日本帝国に関する資料 インターネット共有をしてほしい
 友達と会話しながら本を読めたり勉強ができるスペース 家から出たくない
 どんなものがあっても行きたいと思わない 特にそういうことは考えていない

問11 選択肢のうち、参加したことがある（やったことがある）ものは
 何ですか。（あてはまるものすべて）



読書感想文・感想画は小・中学校の授業等で作成した児童が多いせいか、経験者が多い。
 また、読み聞かせについても、学校等で地域の読み聞かせボランティアが活動している成果
 が表れていると考えられる。一方で、図書館での職場体験や図書館で実施するイベントへの
 参加経験は少なく、学校での読書体験が主となっていることから、普段の生活において読書
 に取り組む児童は少ないと考えられる。